

特集 「竹原のごちそう！」

Vol. 5

第5回目となる今回は、完全閉鎖型工場でフリルレタス等を生産する株式会社野菜工房たけはら代表取締役の山下峻さんにお話を伺いました。

●設立への想い

株式会社野菜工房たけはらは、平成30年9月に創業しました。近年、自然災害が多発するなかで、野菜を安定して生産し、お客様や事業者に安定的に供給することを目的として、気象変動に左右されない完全閉鎖型の植物工場を設立しました。

また、農業従事者が減少していくなかで、農業を支えるため、この農業技術を次の世代に引き継ぎたいという想いも設立の理由です。

●野菜作りのこだわりと課題

野菜作りにおいては、安全・安心を第一に考えています。作業工程は、農地で栽培するのとほぼ同じ流れですが、工場内なので、毎日種を植えて、毎日育てて、毎日出荷をしています。工場内で栽培しますので、菌数を極力減らし、ほぼ同じグラム数で安定した生産が可能になります。レタスのばらつきを極力減らすために、環境整備やレタス一つ一つをどうやって育てていくかを常に考えています。

ただ工場内だからといっても、外気の温度や工場内の広い面積の関係から、常に同じ環境にすることは難しいです。理論上、同じ温度、同じ湿度であれば、同じレタスが育つはずなのですが、工場内全体が同じ環境にはならないために、レタスにばらつきが出てしまうことが会社としての課題です。課題を解決するために、こういった設備があるのかということの一つ一つ考えながら日々取り組んでいます。

●環境に負けない野菜作りを広めていきたい

さまざまな自然災害が発生する中でも、野菜が作り続けられるような設備を今後広めていくために、まずは、同じ環境で良いレタスが育てられることを目標としています。そしてその設備や技術を色々な所に広めていきながら、たくさんの方に弊社のレタスやその他の野菜をお届けしていくことが今後の展望です。

弊社は、安全・安心をモットーに、お客様が安心して食卓に並べられるような商品を作っておりますので、ぜひ弊社のレタスを食べていただいて、感想をいただければと思います。



株式会社野菜工房たけはら
代表取締役 やました しゅん 山下 峻さん

株式会社野菜工房たけはら

平成30年9月に創業。完全閉鎖型工場を整備し、家庭用野菜、業務用野菜の周年生産に取り組み、農業従事者の安定所得、雇用の確保及び農家後継者の育成により社会に貢献している。



▲多段式水耕栽培

完全閉鎖型の工場で、高輝度LEDと反射板構造による多段式水耕栽培を行っており、土を使わずに養液のみで栽培するDFT方式（たんえき湛液型水耕法）を採用している。



▲フリルレタス

野菜工房たけはらの野菜は、衛生管理を徹底した工場内で栽培されており、農薬を一切使っていないため、洗わずに食べられる。

令和6年 竹原市二十歳の集い

1月6日（土）、令和6年竹原市二十歳の集いを開催しました。式典では市長のお祝いの言葉、来賓祝辞に加え、二十歳の代表者による二十歳の誓いが行われました。アトラクションでは、本市出身ラグビー女子日本代表の永井 彩乃選手から激励のこたばをいただき、最後には、市内コーラスグループの協力により、参加者全員で「群青」（作詞：福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生）を合唱しました。



「二十歳の誓い」を一部抜粋して紹介します。

【樋口 栄太郎さん】

本日は、私達のためにこのような素晴らしい場を設けていただきありがとうございます。

私たちは成人という人生の節目、そして大人としての第一歩を迎えることができました。こうして無事に成人を迎えることができたのも、たくさんの愛情を注いで育ててくれた家族やお世話になった先生方、小さい頃から温かく見守っていただいた地域の皆様のおかげであると思っています。そして、恵まれた友人や共に勉学に励んだ同級生にも支えられたと思っています。

現在私達は、大学に進学し勉学に励む者、就職し社会の一員として働く者に分かれ、道は違いますが一人一人自分の夢や目標に向かって努力しています。

私は就職し、社会で生きていく厳しさと一人の大人として働くことの責任を日々痛感しています。それでも、家族の優しさやありがたみ、友人の大切さを改めて感じる事ができました。だから、私も後輩達に人の温かさやありがたみを教えられるような大人に成長したいと思っています。

どうかこれからも地域の皆様の温かい目でご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。そして、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、成人としての自覚と責任を持つことを誓って新成人代表の挨拶とさせていただきます。

【岡田 比奈さん】

本日は、私達新成人のためにこのような式を開いていただき、誠にありがとうございます。

二十歳という人生の節目を迎え、そして大人の仲間入りをした喜びを感じると共に社会人としての責任の重さに引き締まる思いです。こうして無事に成人を迎えることができたのも、家族や友人、お世話になった先生方、私達の成長を温かく見守っていただいた地域の皆様のおかげであることを深く感謝しご挨拶を申し上げます。

現在私は竹原を離れ大学で看護を学んでいます。そして将来はふるさと竹原で養護教諭として働きたいと考えています。大学生活の中で様々な人と関わることで、物事を色々な視点から見る事ができるようになりました。このことを活かした生徒との関わりができるようになりたいと思っています。

また、親から離れて初めて両親という存在のありがたみを感じる事ができました。これからも両親への感謝を忘れない大人に成長したいと思います。

今ここには既に就職して働いている人や、将来に向けて勉強している人など全員がそれぞれの道や方法で日々努力していると思います。それぞれ立場は違いますが、周りへの感謝を忘れず自分の行動に責任をもって過ごしていければいいなと思います。まだまだ未熟な私たちですが、これからも温かく見守っていただければと思います。

